

個人質問

36人の議員が行った質問の中から、いくつかを取り上げて要旨を掲載
 全員の個人質問は市議会ホームページのインターネット議会中継で配信しています。

まちづくり



平面乗り入れのイメージ

路面電車の駅前広場乗り入れ 交通渋滞予測の再調査を検討

問 渋滞の可能性は。また、第三者による調査を検討しては。

答 路面電車専用の青信号の時間を確保することで、駅前交差点の混雑と駅に出入りするバス運行に影響が出る。しかし、駅前交差点の混雑については、イオンモール開業後の交通量で推計しても著しい交通渋滞が発生しないと判断した。今後、計算結果をベースに、できるだけ渋滞が生じないように、県警と協議、検討を行っていく。

バス運行への影響については、ピークとなる7時50分から8時50分までの時間帯に、駅前広場を出発するバスの台数を本市の担当者がカウントした結果、大きな支障は生じないと判断している。しかし、バス事業者からは混雑を懸念する声があることから、再度、客観的な調査の実施を検討している。

地元の声も聞いた駅前広場に

問 路面電車の岡山駅前広場乗り入れについて、駅前商店街へ説明をしてきたか。また、市民に愛されている噴水等の既存施設を今後どう整備していくのか。

答 駅前商店街には平成27年9月と11月に話をしているが、乗り入れにより商店街への動線がふさがれるとの指摘があった。今後、歩行者動線の在り方、広場のにぎわい・憩い空間、景観の向上等について、商店街や地元に参加してもらいながら検討していきたい。

また、乗り入れで支障となる噴水やカリヨン、桃太郎像についても、この検討の中で有効な活用方策も含めて整理していきたい。

市民ニーズを反映した 長期構想に

問 岡山市長期構想（仮称）に市民意識調査の結果は反映されるのか。

答 健康・医療・福祉、教育、安全・安心、子育ての分野に対する市民ニーズが高く、特に30代、40代の教育・子育てニーズへの対応が重要と分析している。また、防災対策、交通、福祉などの施策に対する市民ニーズの高さも確認できた。

こうした結果を踏まえ、課題認識の記述や将来都市像の設定等を行い、長期構想（仮称）の素案として示している。

新しい協働のまちづくり条例

問 条例はどのように変わったのか。また、地域協働の拠点はどこになるのか。

答 社会課題や市民ニーズが多様化し、NPO法人数が飛躍的に増加するなど、市民の活動領

域が大きく広がっている。こうした状況を踏まえ、豊かで活力ある持続可能な地域社会の実現を目指して、多様な主体の協働により課題解決を進める内容に改めた。また、地域拠点機能の整備、市への提案制度など、協働を推進する施策や推進体制、推進計画についても規定した。拠点は、ESD推進の拠点でもある公民館を想定している。

回遊性向上社会実験の分析と 今後の取り組み

問 実験結果をいつ、どういった施策に反映させるのか。

答 当初の計画どおり、3回の実験で、にぎわい創出や回遊性向上などの成果が得られ、将来に向けてのイメージも見えてきた。一方で、歩行者や自転車の誘導、表町商店街との連携、交通規制の在り方などの課題も見つかった。

これらの対応策を検討し、イベントについては、市主催から市民主体への変更も念頭に置きながら、平成28年度も社会実験の実施を考えている。西川緑道公園筋では、将来の定期開催も視野に入れるとともに、県庁通りでは「歩いて楽しいまちづくり」を実現するための道路空間の将来イメージをつくりあげていきたい。



にぎわいをみせた社会実験

／用語解説 ※2 【1号認定、2号認定、3号認定】

子どもの年齢や保育の必要性に応じた区分。1号認定は、子どもが満3歳以上で幼稚園等での教育を希望。2号認定は満3歳以上で、3号認定は満3歳未満で保育の必要な事由に該当し、保育所等での保育を希望

※3 【通学区域制度弾力化】

子どもの個性や適性に応じた特色ある教育を受けることができるようにするため、入学時に子どもが行きたい学校、保護者の行かせたい学校を隣接の学校区からも選択・希望できる制度。平成17年度から実施

子育て・健康

地域の教育・保育ニーズに応じた受け入れを

問 認定こども園の園児の受け入れ状況は。

答 平成27年度に開園した4園のうち、2園で1号認定の3歳児受け入れが増加している。2号・3号認定の子どもは、次年度に進級した際の学級数のバランスを想定して定員を定める必要があるため、27年度は増えていないが、将来的には保育室の利用状況等も踏まえて順次受け入れを増やしていく。28年度以降開園予定の園についても、地域の教育・保育ニーズに応じた受け入れを行っていききたい。

通学区域制度弾力化は地域の声も聴いて検証

問 制度開始から10年が経過したが、市長の見解は。

答 児童生徒や保護者が学校を選択できるようになるとともに、学校の活性化を図る面で一定の成果はあった。一方で「地域とのつながりが希薄になるのではないか」などの意見がある。

これまでも保護者や児童生徒、学校へのアンケート調査は行ってきたが、地域とのつながりという面で、もう少しアンケートの範囲を広げたい。この10年で制度のメリット、デメリットが明らかになってきたことから、関係者や有識者との検討会を実施したい。

ランナーから高い評価を受けた第1回おかやまマラソン

問 ①本市としての評価は。

②総括はどのように行うのか。

③平成28年度以降の考えは。

答 ①岡山の良さや市民マラソンの醍醐味が実感できる素晴ら

しい大会になり、支えていただいた方々にお礼を申し上げたい。

②現在、大会の検証作業を進めているところで、経済波及効果や、一部アンケート結果は28年1月をめどに取りまとめ、公表する予定。

③アンケートでは全般に高い評価だったが、もう一度整理して、客観的な検証を行い、より良い、愛される大会にしたい。



大勢のランナーが参加したおかやまマラソン

地域包括ケアシステムで安心して暮らせる地域づくり

問 高齢者が在宅生活を続けられるための取り組みは。

答 具体的には、医療・介護が必要になった場合に、在宅生活を支えていく拠点として、平成27年5月に地域ケア総合推進センターを設置した。また、自立して日常生活を送っている高齢者には、介護予防のための事業や多様な生活支援サービスを提供する介護予防・日常生活支援総合事業を29年度の開始に向けて準備する。さらに、意欲ある高齢者には、培った能力や経験を生かして地域社会で活躍してもらえよう支援する「生涯現役応援センター」を開設するなど、取り組んでいく。

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築を目指している。

肺炎球菌予防接種で高齢者の肺炎予防を

問 予防接種による健康寿命延伸と医療費削減の効果は。また、未接種者への啓発は。

答 一定の前提条件はあるものの、65歳で予防接種をした場合、接種しない場合に比べ、健康に過ごせる日数が1.17日延伸され、一人当たりの医療費が5年間で約27万円減るなど、特に医療費の削減に効果があると推計されている。

より多くの高齢者に接種してもらうため、年度当初に対象者へ通知し、さらに広報紙等で周知を図っているが、平成27年9月末時点で、接種率は17.3パーセントにとどまっている。そのため、岡山市医師会を通じ、インフルエンザの予防接種に訪れた対象者に、肺炎球菌の予防接種の案内をしている。今後接種者数が増えない場合は、必要な対策を検討していきたい。

一人でも多くの患者を救うため一人でも多くのドナー登録を

問 骨髄移植ドナー登録の啓発と、支援の見通しは。

答 区役所・保健センター等で、ポスター掲示やドナー登録のしおりにより啓発している。また、平成27年10月から市役所本庁舎で実施している献血時に登録の呼び掛けを行ったところ、10月には9件、11月には11件の登録があった。

ドナーには、善意で自主的に登録する任意性が求められることや、ドナー登録をしてもさまざまな事情により骨髄提供に至っていないなどの課題がある。これらを踏まえ、支援については早急かつ前向きに検討していきたい。

用語解説 ※4 【地域包括ケアシステム】

医療や介護が必要な状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるような支援・サービス提供体制

※5 【骨髄移植ドナー】

骨髄移植とは、白血病や再生不良性貧血などの血液難病の患者に正常な骨髄細胞を静脈内に注入して移植する治療のことで、細胞の提供者をドナーという

防災・暮らし・観光

※6 内水ハザードマップで 大雨の危険度を認識

問 地域と連携した浸水対策は。

答 内水による浸水の区域や深さを認識してもらうため、内水ハザードマップを平成27年度に作成し、28年度に公表する予定。公表済みの洪水・土砂災害のハザードマップとともに地域の危険度を認識してもらい、自助・共助の観点から早期の行動などにつなげていきたい。

併せて、市民と連携した減災対策を重点的に進めることが重要と考えている。支援体制の充実や必要に応じて関係者が連携して浸水対策に取り組むための行動計画、条例の制定などを検討していきたい。

火災の犠牲者を減らすため 住宅用火災警報器の設置を

問 ①設置による早期発見事例は。
②設置義務化から10年目となる平成28年度の取り組みは。

答 ①一戸建て住宅で高齢者の寝たばこによる火災が発生したが、隣人が警報音に気付いて通報し、駆け付けた警察官に救出された事例などが57件ある。
②電池切れや電子部品の寿命等により交換時期を迎えるものが増加することから、適切な維持管理と交換の広報を強化するため、消防職員・消防団員による戸別訪問を実施し、未設置世帯



人命を守る火災警報器の設置をお願いします

／用語解説 ※6 【内水ハザードマップ】

大雨時に想定される下水道や水路の排水能力を上回る雨水流出が生じた際の浸水区域や水深などの情報をまとめた地図

への働きかけも行いたい。

危険な用水路の安全対策を

問 ①過去3年間の転落事故による、けが人と死亡者の数は。
②危険箇所数とその対応は。

答 ①平成25年は負傷者129人、死亡者3人。26年は負傷者121人、死亡者10人。27年は11月末現在で負傷者99人、死亡者9人。

②県警が把握している本市内の危険箇所数は、27年10月15日現在で66カ所。そのうち、28カ所が対策済みで、残り38カ所についても、地元調整を図りながら順次対策を行っている。

マイナンバー制度の安全・安心な運用を

問 ①通知カードが郵便局で保管された後、市に返送された場合の対応は。

答 ①返送理由を確認、調査した後、転居先への再送等を行う。また、受け取り拒否の場合等は3カ月程度保管するとともに、市役所本庁舎内に専用の臨時窓口を設けて対応する。

②区役所、支所、地域センターの窓口職員に対し、マイナンバーカードの発行や住所異動に伴う事務処理などについて研修を実施した。平成28年1月からはマイナンバーを記載する法定手続きやマイナンバーカードの交付手続きも開始されることから、本人確認や個人情報保護などの徹底についての研修も行う。

観光・文化イベントの 同時開催で相乗効果を

問 ※7
岡山芸術交流の来訪者が観光地を巡る仕掛けを考えては。

答 岡山城も現代アート作品の



観光面でも期待される岡山芸術交流

展示会場とするとともに、岡山駅東口前広場、福岡醤油、後楽館天神校舎跡地にインフォメーションセンターを設置し、市内や近隣の観光地案内をする予定。

また、同時期に開催予定の瀬戸内国際芸術祭や、夜型イベントとして計画している秋の幻想庭園・烏城灯源郷と連携することで、外国人個人観光客も含めた都市部から来訪する岡山駅利用者に、本市をベース宿泊地としてもらえるようにしたい。

「おかやま歴史のまちしるべ」 周辺地域にも設置

問 周辺地域での歴史案内看板整備の進捗状況は。

答 「おかやま歴史のまちしるべ」は歴史、由来等を広く現地で紹介する歴史案内看板。市民や観光客が地域の歴史や文化に触れる機会を増やすことで、郷土に対する愛着や誇りの醸成、観光振興に寄与することを目的に設置する。

現在、周辺地域の宿場町や門前町など^(注)12地区を選定し、文献や現地調査を行うとともに、歴史・文化関係の有識者などを交え、歴史看板の内容や設置場所など整備方針の検討を進めている。

(注) 12地区

建部、金川、足守、高松、板倉、宮内、庭瀬・撫川、妹尾、郡、藤井、西大寺、児島湾干拓地

※7 【岡山芸術交流 (Okayama Art Summit 2016)】

旧城下町エリアのにぎわい復活に向けた起爆剤として、芸術文化のもつ創造性に着目し、官民の力を結集した現代アートの祭典。平成28年10月9日から11月27日まで開催予定